

TOUR DE HOKKAIDO 2005 NEWS

2nd Stage 2005年9月16日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	4:24:24
2	ティロ・シュラー	ドイツ	+0:03
3	パク サンバク	韓国	+0:03
4	ユウ タエホ	韓国	+0:03
5	ジャン スンジャ	韓国	+0:03
6	清水 都貴	ブリヂストン・アンカー	+0:03

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	48
2	エディ・ラッティ	NIPPO	32
3	岡崎 和也	NIPPO	29
4	清水 都貴	ブリヂストン・アンカー	26
5	ティロ・シュラー	ドイツ	20
6	盛 一大	愛三工業	17

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	NIPPO	27:12:15
2	愛三工業	+3:39
3	ブリヂストン・アンカー	+5:37
4	シマノ	+5:55
5	韓国	+8:04
6	ミヤタ・スバル	+8:21
7	鹿屋体育大学	+8:39
8	キナンCCD	+8:46
9	日本大学	+9:17
10	ロシア	+9:20
11	北海道地域選抜	+9:50
12	カナダ	+11:18
13	ドイツ	+15:16
14	明治大学	+15:39
15	ラバネロ	+15:56

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	エディ・ラッティ	NIPPO	4:38:28
2	岡崎 和也	NIPPO	+1:25
3	清水 都貴	ブリヂストン・アンカー	+1:41
4	狩野 智也	シマノ	+1:52
5	新保 光起	愛三工業	+1:55
6	別府 匠	愛三工業	+2:33

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	エディ・ラッティ	NIPPO	22
2	別府 匠	愛三工業	16
3	新保 光起	愛三工業	8
4	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	7
5	盛 一大	愛三工業	7
6	岡崎 和也	NIPPO	6

2nd.stage マリウス・ヴィズィアック (NIPPO) が3秒差で逃げ切りステージ優勝

昨日のステージで力を発揮できなかった愛三工業の西谷泰治とブリヂストン・アンカーの田代恭崇がスタート直後から積極的に動く。最初の上りで2人が先行。さらに10人が合流して先頭12人。各チームとも早い段階から動きを見せる。

先頭12人は山頂前で吸収される。今日一回目の山岳ポイント争い。山頂前に盛一大(愛三工業)が抜け出してトップで通過。エディ・ラッティ(NIPPO)と別府匠(愛三工業)の争いはラッティに軍配があがった。

山頂からは太平洋にへ向けての長い下り。ここで大内薫(シマノ)、マリウス・ヴィズィアック(NIPPO)、佐野友哉(ブリヂストン・アンカー)が集団から抜け出す。

さらに三船雅彦(ミヤタ・スバル)、そして学生の三瀧光誠(鹿屋体育大学)と大村寛(法政大学)が第2集団を形成して3人を追う。

1回目のホットスポット通過順位は1位ヴィズィアック、2位佐野友哉、3位大内薫。

その後、第2集団を形成していた三船が機材故障のためメイン集団に戻ってしまう。しかし、代わりにダニール・コムコフ(ロシア)が合流。さらに後続から日置大介(キナンCCD)、キム(韓国)が追いつく。



3秒差で逃げ切ったマリウス・ヴィズィアック(NIPPO)が指輪にキスをしてゴールに入った。後方は55人の大集団

5人になった第2集団はペースがあがり先頭3人を吸収し、先頭集団は8人になる。大村は遅れてしまうが、三瀧は学生チャンピオンの意地を見せ、先頭集団を積極的に引く。

後方集団は6分以上の差をつけられたが、ペースをあげ、先頭集団を追い上げる。

2度目の山岳ポイントを前に先頭集団から韓国のキムが飛び出す。これにヴィズィアックが追いつき山岳ポイントを通過、先頭は2



ゴールの本別町では、「日照時間日本一の本別町に皆さんをお迎えできた」と高橋正夫町長は胸を張った

人に。残りは下りで集団に吸収される。タイム差30秒。

残り10kmで、ヴィズィアックが単独アタック。タイム差20秒で独走を開始。

集団はタイム差を縮めるがヴィズィアックが3秒差で逃げ切ってステージ優勝を決めた。ヴィズィアックがポイント賞を獲得。ヴィズィアックは昨年ツアー・オブ・ジャパンの大団ステージでステージ優勝している選手だ。

3rd.stage 強すぎるぞ NIPPO!! 捲土重来なるか愛三工業レーシング

個人総合はNIPPOのラッティから動くことは、よほどのことがない限り、ないだろう。すでに大きな山もいくつか越え、文字通り大会の山場も過ぎた感がある。今後の楽しみはもっぱら逃げとステージ優勝だ。

リーダージャージをたった一日で奪われた愛三が意地を見せてステージを取れるかに、もっとも注目が集まるどころだ。西谷泰治には三大大会連続のステージ優勝という、個人的な記録もかかっている。残り3ステージは西谷が得意とする平坦ゴール。三タテすれば愛三にはチーム総合の可能性もある。

また、山岳では現在山岳ポイント3位につけながら、1位2位の選手がほかのジャージを着ている都合で、愛三の別府匠が第2ステージに続いて第3ステージも山岳ジャージを着

用することになる。リーダージャージを失っても、なにがしかジャージを着ていられるところが、まだ運に見放されていない証拠かもしれない。第3ステージの山で真のジャージ獲得となるかも見ものだ。

もう一つの注目は若手が元気なブリヂストン・アンカーだ。清水都貴は現在総合3位。僅差で2位の岡崎と順位を入れ替えることは十分にありうる。第1ステージ、最後の山でアタックを見せた清水裕輔、第2ステージ100km近い逃げを見せた佐野友哉が、もうひと暴れできるだろうか。

個人総合が確定的になった後では、予想外の大逃げもよくあることだ。全日本選手権で4位に入り周囲を驚かせたキナンCCDの広瀬学など、ダークホースの活躍も楽しみだ。



学生チャンピオンの三瀧光誠(鹿屋体育大学)が逃げに乗った。今年のツール・ド・北海道では積極的な走りを見せている